



JAPANESE RED CROSS TOYOTA COLLEGE OF NURSING

Vol.39

ITOSUGI

いとすぎの丘



01 就任あいさつ

02 大学行事

学位記授与式・入学式
豊田市長との意見交換会
タイ赤十字看護大学 (STIN)
との国際交流

03 大学の活動

04 きらめく卒業生

05 学生生活

06 地域貢献

07 Information

日本赤十字豊田看護大学

発行日／2024年5月

01 就任あいさつ



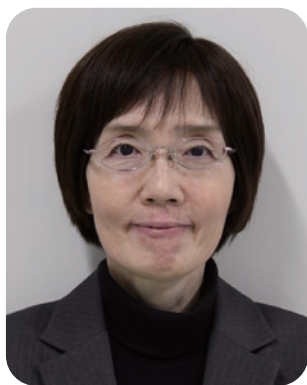
学 長 百瀬 由美子

信州大学医学部保健学科准教授、愛知県立大学看護学部教授、学部長、副学長、本学教授、研究科長を経て現職に就任。現在取り組んでいる主な研究は、災害時要援護者防災・減災対策モデルの構築に

2024年、4月に日本赤十字豊田看護大学の第5代学長に就任致しました百瀬でございます。就任のご挨拶に先立ち、今年の元日に発生しました能登半島地震でお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。本学におきましても発災直後より職員が現地に備蓄品をお届けしたり、様々な手続き関係の支援活動に参画したり、また日本赤十字社は継続的に救護活動、救援物資の配布、ボランティア活動及び義援金の受付等を実施しております。一日も早い復興を祈念しております。さて、今、在学の皆さんは高校生、本学入学後の多くの時間を新型コロナウイルス感染予防の

ため、さまざまな制約のある学生生活を過ごされてきたと思います。ようやく、規制が緩和され、感染対策も個人の判断に任されるようになりました。しかしながら、なお病院や福祉施設等ではコロナやインフルエンザ等の感染症予防対策は継続されていることから、個人の責任において自覚と緊張感をもってキャンパスライフを大いに楽しんでいただきたいと思います。

本学は、昨年開学20周年という節目の時を迎え、数々の記念事業を挙げてきました。これまでの大学運営の継続と周年事業を盛会裏に終えることができたこともひとえに関係の皆様方のご支援の賜物と感謝申し上げます。今年は伝統を継承しつつ、新たなスタートの年と捉え、今後も発生するであろう新興微生物等によるパンデミック、南海トラフを震源とする巨大地震、そして頻発する自然災害等、予測不可能な状況に遭遇しても、赤十字の基本原則である「人道」の精神を踏まえ、自ら考え、根拠のある知識と技術をもとに行動できる人材の育成を、東海北陸地域の赤十字病院との連携をさらに強化し、ご支援をいただきながら、目指していきたいと考えております。また、豊田市にある看護大学として、市内の高等教育機関と豊田市・産業界で形成している豊田市高等教育活性化推進プラットフォームの取り組みを通して、有能な人材の育成と地域社会での活躍を促し、この地域の健康の維持・増進、防災・減災対策の推進、人々のQOLの維持・向上に寄与する活動を継続していきたいと思っておりますので、どうか学部生・院生の皆さんも積極的に一緒に取り組んでいただければ幸いです。



研究科長 長谷川 喜代美

2024年に大学院研究科長を拝命いたしました。より魅力的な大学院となるよう、皆さまのお力添えをいただきながら、微力ながら尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。就任にあたり、略歴と抱負を書かせていただきます。

看護職の実務経験では、千葉大学看護学部卒業後、保健師として静岡県の下田保健所および熱海保健所に

勤務し、母子保健、精神保健、感染症など様々な業務を担当しました。その後、人事異動の一環で県立の看護専門学校において保健師養成に従事するようになったのを機に、教育に軸足をシフトしました。2015年に本学の公衆衛生看護学領域教授として着任し現在に至っています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機として、大学においてもオンライン教育やシミュレーション教育など新たな教育方法が導入されています。このような教育方法により学生に学修の機会を保障するとともに、対面での関わりやリアルな体験を通してこそ得られるものを確認し効果的な教育方法を検討していくこと、さらに、学修成果の可視化の工夫が必要と考えます。

また、大学院では、高度な専門性と研究・教育能力を養うことをめざしていますが、健康課題が複雑・多様化するなかで、ヘルスニーズに応じることが困難な状況になっています。そのような状況の克服に向けて、現場の課題に向き合い、現場から知を創ることをめざし、大学院生を支えていきたいと思っております。

02 大学行事

■ 学位記授与式(卒業生答辞)

看護学部卒業生代表 徳永 唯良々

4年前の春、私たちは新型コロナウイルス感染症が流行する中、期待と不安を胸にこの大学に入学しました。先生方のご指導のもと、互いに学び合い、それぞれが多くの学びや経験を通じて考え、「看護」を見つけて出していたこの4年間は、瞬く間に過ぎたように感じられます。私が大学生活の中で心に残っていることは、「看護学実習」です。各実習での患者さんとの出会いは、看護の原点を知る機会となりました。なかでも、ある患者さんから「あなたに出会えてよかった」というお言葉を頂いた時には、心に温もりを感じ、全人的な視点から生活や希望を見据えて関わり、誠実に向き合って看護をする大切さを学ぶことができました。



た。この大学で多くの学びを得て、成長できたことを誇りに思います。これから先も周りの人々や環境に常に感謝の気持ちを忘れず、私たちらしく歩んでゆきたいと思います。

学生表彰

毎年、成績優秀な学生を表彰しています。

令和5年度受賞者

■学業において大変優れた成績をおさめた学生

1年生 大野 美玖 2年生 松崎 佑香
3年生 武藤 光玖 4年生 瀬瀬 由衣

■社会活動において功績があった学生

1年生 鈴木 綾夏

■私立看護系大学協会会長表彰

4年生 瀬瀬 由衣

本学では「卒業研究」として、興味関心をもった看護上の現象や疑問を科学的・系統的に探求する方法を学び、卒業論文としてまとめます。毎年、その中で優れた卒業論文を表彰しています。

■最優秀卒業論文に選ばれた学生

4年生 徳永 唯良々

「ALS療養者のスピリチュアリティに音楽聴取が及ぼす影響」

4年生 瀬瀬 由衣

「腹部手術後の起き上がり動作時における腹部保護姿勢が腹筋群の筋活動に与える影響-健常者を対象とした準実験研究-」

4年生 山田 和泉

「家族と医療者との意見対立場面に遭遇したICU看護師の経験-ICU入室患者の終末期治療の意思決定を焦点として-」

■ 入学式(新入生挨拶)

看護学部入学生代表 湯之上 千夏

麗かな春の陽気が続く頃となりました。今日この日、私達新入生の為にこのような素晴らしい入学式を挙行していただき心より御礼申し上げます。



2024年1月1日におきた能登半島地震により、多くの命が失われ、住まいを失うなど深刻な状況に置かれている方が今もなお数多くいらっしゃいます。そんな中、全国の赤十字施設から救護活動や、救援物資の輸送、義援金受付を行っていることを知りました。支援を必要としている方々のために迅速に行動し、被災地に寄り添う姿は赤十字の理念である人道を表しており、また、私達が目指すべき姿だと強く感じました。

本日から私達の看護学生としての生活が始まります。先生や先輩方のお力をお借りしながら、この日本赤十字豊田看護大学で看護学を学び、幾多の困難も仲間と共に乗り越え、切磋琢磨し、夢に向かって努力していきたいと思っています。

■ 豊田市長との意見交換会

12月14日（木）に学生17名が参加し、豊田市長との意見交換会を開催しました。

豊田市内のキャンパスに通っている大学生の日頃考えているアイデアや意見をまちづくりに反映することを目的に実施されました。

豊田市長より「ずっと暮らしたいまち『豊田市』」をテーマにご講演いただいた後、「理想のライフプランや働き方」や「住みたいまち」、「地域とのつながり」をテーマに看護学生としての意見もふまえながら豊田市長と意見交換を行いました。豊田市についてより知る機会となったとともに、自分のキャリアプランを考える機会となりました。



■ タイ赤十字看護大学(STIN)との国際交流



COVID-19の影響でオンラインのみだった交流を、今年度は対面で実施しました。8月には初めて本学2年生3名をSTINに派遣しました。学生寮での生活、授業や実習への参加、赤十字関連施設や医療機関の見学を通し、国際的な視野が広がった1週間でした。12月にはSTINの学生3名が来日しました。本学学生が歓迎会、お別れ会を企画・実施し、互いの文化を理解して友好の輪が広がりました。STINの学生は、ホストファミリーとの思い出や、日本ならではの保健医療体制の学びを胸に帰国の途につきました。

今後もSTINとの交流を始めとした国際交流事業を拡大・継続していきます。

03 大学の活動

■ 令和6年能登半島地震における本学の活動

被害の大きかった能登半島を応援するイベントとして、赤十字のネットワークを活かし、発災翌日から石川県にて救護活動を行った赤十字看護師を招き、本学学生に向けて講演いただきました。現地の様子を知るとともに、インフラも全て止まっている中どのような活動をどのような思いで行ったのか、貴重なお話を聞くことができました。また会場外では有志の学生スタッフが義援金の募金活動を実施し、多くの方にご協力いただきました。

また、赤十字の一員である本学では、日本赤十字社愛知県支部からの要請を受け、発災翌日から被災地への災害備蓄物資の搬送や、日本赤十字社石川県支部内に設けられた災害対策本部の本部要員・支援要員（支援スタッフ）として大学職員の派遣を実施しました。

本学はこれからも被災地の方々や被災地を支える人々の支援を継続してまいります。



赤十字看護師による講演の様子



募金活動をする学生



支援として活動記録を作成する職員

04 きらめく卒業生

豊田市役所で保健師として活躍されている山本さん
にお話を伺いました。
(4月からは健康政策課に勤務されています)

豊田市役所 こども家庭課勤務

山本 実希 さん

2022年3月卒業 (16期生)



Q 保健師になろうと思ったきっかけ

A 授業の中で健康教育や予防の観点について学んだこと、看護学実習中に病気が進行してしまうと健康な時のようには戻れないという状況を見て、予防を重視したいと思いました。また、病院から退院した後も対象の方の生活は続いていくため、地域の中での生活をサポートできる仕事に就きたいと思い、保健師になりました。



Q 大学での学びがどのように活かされていますか？

A 実習で家庭訪問に同行させていただいた時に、お母さんから母乳の相談をされました。最初、私はどうやって母乳育児を続けていくかということばかりを考えていたのですが、指導保健師さんに「お母さんは母乳を続けていきたいと思っているの?」「ミルクに変えてもいいと思っているんじゃないの?」と言われて、本当にそうだなと思いました。実際は母乳育児を続けたいわけでも、こだわりがあるわけでもなく、体重を見ながらミルクにしていこうと指導保健師さんが話したら、お母さんはそうしていきますとすんなり受け入れたのです。私は自分の思い込みで問題を捉えていて、お母さんがどう思っているのか、何を求めているのかということを意識できていなかったことに気づきました。今は、お母さんが何を思っているのか、どのように考えているのかということに気をつけるようにしており、実習からの学びを活かしていると思っています。

Q こども家庭課の仕事

A 母子健康手帳交付の際に支援が必要だなと思った方にどのように支援していくか、どの部署が支援を担うか等、精査し会議にかけています。また、パパママ教室や妊婦教室、妊娠中の過ごし方の説明や今後出産に向けての準備、赤ちゃんの抱っこ体験といった事業や3,4か月健診等の乳幼児健診に入ってお子さんの発達などを見させていただいています。

Q 保健師の魅力とは

A 母子の分野を担当していますが、成人や高齢者といったどんな年代の方々ともどこかで関われるというのは1つの魅力かと思います。あとは、最初に課題を抱えていた人が保健師と一緒に課題に取り組んでいく中で、前の状態よりもよくなったとか、しんどかったのが楽になったよという過程を見ることができる、一緒に過ごすことができるというのは病棟では難しく、地域で働く保健師ならではの魅力かと思います。

Q 目指す保健師像や今後の目標

A 母子だけでなく、成人、高齢者、感染症などに関係した仕事をこなせるようになりたいと思っています。また、育児や家庭と仕事との両立をしたいとも思っています。あとは、保健師としてのスキルアップでしょうか。最初、拒否的な人でも、保健師さんがお話しされると納得の方向に向いたり、前向きに捉えられるようになると凄いなと思います。コミュニケーションスキルの高い保健師になればいいなと思っています。

在学生へのメッセージ

行政保健師の就職が難しいといわれていますが、とにかくあきらめないことです。私は5~6か所の自治体に履歴書を出すつもりで、実習しながら履歴書を書いてゼミの先生に見ていただいていたので、行政の就職試験は4月から始まっていたので、3年生の3月には履歴書を提出していました。どうしても保健師になりたいなら、自分で調べる力も必要です。実習に行きながら就職試験があるので、大変だと思いますが、保健師希望の学生はみんな実習をしながら就職試験を受けているので状況は一緒なんです。ただ、1か所合格する人はいくつも合格している印象です。その人たちが就職試験から抜けていくので、早い段階で落ちてもあきらめず、8月から10月くらいまで受け続けていけば、保健師として就職できると思います。あとは、大学の友達を大事にすることです。社会人になっても仕事のしんどいことを相談できる友達は心の支えになってくれると思います。



▲勤務中の様子

05 学生生活

RCT☆LINK



4年 神野 里空

梅雨の走りかと思うような日々が続いていますが皆さんはいかがお過ごしでしょうか。私は楽しく充実した大学生活を送っています。現在は看護学実習が始まっており、同じ実習グループの学生や実習担当の先生、実習指導の看護師さんのアドバイスをともに試行錯誤しながら自分の目指す看護が何かを考える毎日です。

大学に入る前はほとんど同性としか話をしたことがなかったため、入学当初は女子学生が多い環境に戸惑いを感じていました。その時に支えとなったのは同学年の男子学生でした。私たちは大学生活での悩みや不安を昼休憩や放課を利用して話し合っており、それは今でも続いています。この時間は私にとって安心感を持てる場です。現在では男女の隔てなく同じ学年の皆と看護について話すことや学ぶことができる毎日が楽しいと感じています。

実習で印象に残っていることは、成人慢性期看護学実習で糖尿病をもつ患者さんを受けもたせていた

▼前列右から4番目が神野さん



だいた経験です。食事・運動療法の教育的支援を行う際、看護師が患者さんのできることを超えた療養行動を求めることは、療養の「継続」にはつながらないことを考えさせられました。患者さんに必要なことを伝えるだけではなく、患者さんの求めていることやこれまでの日常生活を踏まえた上で「患者さんができること」を一緒に考えることが大切だと学ぶことができました。他にも小児看護学実習でのコミュニケーションの難しさなど実習では看護学領域それぞれでの難しさや苦労を感じています。しかし、私はそれ以上に新しい学びができる楽しさを感じています。今後の実習においても新しい学びができる楽しさを感じながら取り組んでいきたいです。

⇒ 次回のRCT☆LINK 3年 伊藤 璃胡さんです

キャンパス紹介&写真で見る学生生活

▼サークルメンバーと伊藤さん（奥から2番目）



「サークル活動-The Serendipity-」

The Serendipityサークル長 伊藤 凜

The Serendipity は、「国外の子ども達の笑顔そして健康増進のため、看護学生だからこそ行える保健教育活動を実施する」目的で活動をしています。新型コロナウイルス感染症の流行により、カンボジアの子ども達への現地での保健教育が行えなくなりました。しかし、「子ども達の笑顔のために」という創立当初からの合い言葉を念頭に、私たちは、オンラインで日本文化について授業を行ってきました。制限がなくなった後、私たちは念願の渡航をする予定でしたが、2023年10月に勃発したパレスチナ・イスラエル戦争など世界情勢の

悪化のため、渡航は危険と判断され、中止を余儀なくされました。現在は新しい試みとして、日本に住んでいる外国人の子ども達へ日本語教室などのボランティアに参加する計画を立てています。今後は、カンボジアの子ども達への活動に加えて、国内の外国人の子ども達に対しても活動していく予定です。

学修環境向上のための新たな取り組み～DX教材の導入～

文部科学省による大学改革推進等補助金、「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に採択され、複数のDX教材を導入しました。今回は、老年看護学実習における携帯型タブレットを用いた遠隔実習指導について紹介します。遠隔実習指導は、カンファレンスの場で行われています。カンファレンスとは、実習中の学生が、受け持ち患者さんに関する課題や援助に関すること、その日の悩み事の解決策などを話し合う場です。遠隔実習指導では、現地にいる教員だけでなく、実習施設でタブレットを用いて大学にいる教員もカンファレンスに参加し、フィードバックや助言を行っています。教員は、学生の実



実習中の学生（病院）



大学にいる教員

践や考えを説明する姿から学生の成長をとらえるとともに、話し合いの内容に合わせた助言を伝えます。学生は、助言によって新たに得られた視点や知識を、今後の患者さんとののかかわりに活かせるといった効果が得られています。

06 地域貢献



■ EASブラジル人学校 身体測定会

本学では地域住民の健康意識の醸成を図る一つの施策として、平成28年よりブラジル人学校での身体測定会を毎年行っています。3月14日(木)、看護教員が身長・体重を測定し、カウプ指数・ローレル指数に基づいた発育状態の判定を行いました。本人・家族へフィードバックすることで健康や成長に目を向けてもらう機会を作っています。



07 Information

Event (4月～11月)

■ 大学行事

4月	4日(木) 入学式	9月	7日(土) 第1回大学院入試 28日(土) 第3回オープンキャンパス2024
5月	25日(土) いとすぎ祭(大学祭) 同日第1回オープンキャンパス2024	10月	19日(土) 第2回大学院説明会
6月	22日(土) 第1回大学院説明会	11月	30日(土) 看護学部推薦選抜入試
8月	22日(木) 第2回オープンキャンパス2024		

令和6年度専門職向け研修会(4月～11月)

■ 公開講座

日 時	講 師	テーマ	備 考
9月頃	在宅看護学領域教員	自分の歩行は大丈夫ですか? 歩行スピードが遅いのは事故のもと。転倒は万病のもと(仮)	対面開催

■ 専門職向け研修会(医療従事者向け研修会)

日 時	講 師	テーマ	備 考
7月20日(土) 10:00～11:30	新潟大学大学院保健学研究科 宮坂 道夫教授	臨床倫理の実践 ～倫理的課題への対応力を身に付けよう～	オンライン (Zoom)
10月5日(土) 9:30～14:30	基礎看護学領域 巻野 雄介准教授	看護に役立つポケットエコーを使ってみよう(仮)	対面開催
11月9日(土) 10:30～12:00	看護管理学領域 南谷 志野教授	心理的安全性を高めて、最強の看護チームをつくらう	オンライン (Zoom)

令和6年度入学試験結果

学部	入試区分	定 員	志願者数	志願者倍率	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数
大学独自選抜		40	231 (16)	5.8	231 (16)	133 (8)	1.7	91 (9)
大学入学共通テスト利用選抜(前期A)		6	109 (6)	18.2	109 (6)	27 (3)	4.0	1 (1)
大学入学共通テスト利用選抜(前期B)		6	108 (5)	18.0	108 (5)	52 (1)	2.1	3 (0)
大学入学共通テスト利用選抜(後期)		6	3 (1)	0.5	3 (1)	1 (0)	3.0	1 (1)
高等学校長推薦選抜		30	26 (1)	0.9	26 (1)	26 (1)	1.0	26 (1)
赤十字特別推薦選抜		30	15 (1)	0.5	15 (1)	15 (1)	1.0	15 (1)
社会人特別選抜		2	1 (0)	0.5	1 (0)	1 (0)	1.0	1 (0)
計		120	493 (30)	4.1	493 (30)	255 (14)	1.9	138 (13)

学部	入試区分	定 員	志願者数	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数
大学院入試(修士課程)	第1回	10	4 (0)	4 (0)	4 (0)	1.0	4 (0)
	第2回		3 (1)	3 (1)	3 (1)	1.0	3 (1)
大学院入試(博士課程)	第1回	2	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0	0 (0)
	第2回		3 (0)	3 (0)	3 (0)	1.0	3 (0)

※ () 内は男子学生数再掲。倍率は小数点以下第二位を四捨五入。

大学院入試(博士課程)定員は北海道・秋田・広島・九州と本学合わせて計10名。令和6年度の本学定員は2名。

令和6年度新入教職員

●キャリア支援室長	特命教授	伊藤 明子	●老年看護学	助教	段 暁楠
●小児看護学	講師	神谷 美帆	●基礎看護学	助手	山中 大輔
●公衆衛生看護学	講師	大森 美保	●アドミッションオフィサー	参事	古田 昌明
●成人看護学	講師	渡邊 直美	●学務課	課長	夏目 美和
●基礎看護学	講師	大西 幸恵	●学務課	主事	渡辺 達郎
●在宅看護学	助手	宝木 百代			

寄付について

募集期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日

寄付総額：20,158,161円（内、開学20周年寄付金 19,915,340円）

ご芳名：ご寄付いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。

鎌倉やよい様、深津一明様、森田一三様、(株)モレーンコーポレーション様、関電ファシリティーズ(株)様、
日本赤十字豊田同窓会様、日本赤十字豊田看護大学後援会様

※100,000円以上のご寄付をいただいた方を掲載しております。匿名希望の方は表記されていません。

寄付用途：下記の用途などにご寄付を使わせていただきました。

- ・LEDビジョン整備（開学20周年事業寄付金）
- ・アカデミックガウン
- ・演習用モデル人形 など

ご支援を賜り心より御礼申し上げます。

■寄付のお願い

学生に対して十分な教育環境と学生生活の支援を行うことを目的として、日本赤十字豊田看護大学サポーターズ募金“いとすぎ募金”を創設いたしました。皆様からのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【活用方法】

①教育活動の充実 ②研究活動の充実 ③奨学金制度の充実 ④学生生活の支援 ⑤施設整備の充実 ⑥社会連携の推進

【金額】

1口5,000円（個人） 1口10,000円（法人）※1口から10口程度お申込みいただけますと有難く存じます。

【税制上の優遇措置】

本学への寄付金は、税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

申込方法等の詳細は、ホームページをご確認ください。

最新情報をチェック！

入試情報やイベント情報などを発信しています。ぜひフォローをお願いします！

LINE公式アカウント



Instagram



JRC.TOYOTACOLLEGE

X



愛知県内赤十字施設共同Instagram



NISSEKI_AICHI

編集後記

今号の広報誌をお読みいただき、心より感謝申し上げます。今年は能登半島地震や航空機事故に見舞われた新年から始まり、被災地では復旧・復興に向けた支援が続いている状況です。被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、赤十字の大学として将来災害現場で活躍できる学生を育てる使命を強く感じています。

「いとすぎの丘」vol.39では、新年度を迎えて新たに就任された学長、研究科長の挨拶をはじめ、職員の被災地支援を紹介し、学生生活では活動を再開したサークルの様子などを掲載しました。今後もサークルなどの学内外の活動が活発になることで学生生活がより豊かになっていくことを期待します。

本号の発刊に際しまして、在学生、卒業生、教職員の皆さまにご協力いただきました。深く感謝いたします。

いとすぎの丘 Vol.39

発行日／2024年5月

編集・発行／日本赤十字豊田看護大学

入試・広報委員会、企画・地域交流課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5111（代表）

FAX 0565-37-8558

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp

HP <https://www.rctoyota.ac.jp/>